

新型コロナウイルス感染症対応の臨時休業等により、家庭学習を見つめなおす機会が増えました。子供にとって、「やらされる」学習ではなく、主体的に「やりたい」と思える学習となるよう、教師自身が家庭学習の目的を確認し、適切に指導を行っていくことが重要です。

## 1 家庭学習の目的を確認しましょう

- 例
- 学習習慣（自己管理能力）を身に付け、自ら学びに向かう姿を育てる。
  - 基礎的・基本的な知識・技能の定着や、応用力・活用力の育成を図る。
  - 自分で目標や課題を見つけ、解決していく力を身に付けさせる。
  - 家庭生活・地域・社会に興味・関心を持ち、学習とつなげる。
  - 読書や図書館に親しむ姿を育てる。

## 2 目的に応じた指導を行いましょ



復習や予習で、基礎基本を定着させたいなあ。

### 【指導例】

- 「何でもよい」と全てを子供に任せるのではなく、発達段階や特性を見極めながら、具体的に指示する。
- 次の授業で必要な既習事項を遡って復習させ、授業で実際に活用することで、有用感を持たせる。



自己管理しながら学習する習慣を付けさせたいなあ。

### 【指導例】

- 「何のために勉強するのか」「なぜ家庭学習は必要なのか」等、子供の疑問や思いを話し合う場を持つ。
- 道徳や学級活動で、「望ましい生活習慣」や「自分に合った学習方法」について学習する。
- 学校や市町村が作成した手引き等を活用し、保護者と連携する。

### 実践例(小学校)「目的別による漢字練習」

正しい形や筆順の定着を目的とした漢字練習

とめ・はらい・はねや点画の形・長さ等を丁寧に書き写したり、正しい筆順で書いたりする練習をします。

様々な読みや用途を広げることを目的とした漢字練習

様々な熟語で用途を広げます。同じ音訓や形が似ている漢字は意識的に注釈を加えます。

「学力向上を支える基盤づくりに向けて」(H30.3月鳥取県教育委員会)  
→小中学校課HPより閲覧可

### 実践例(中学校) 学級活動

自分合った学習方法を考えよう (学級活動(30分))

学習意欲の向上 学習方法について互いに意見交換を行いながら、生徒一人一人が自分に合った学習方法を考え、学習意欲を高める。

- ① 事前の指導と生徒の活動
  - アンケートを実施して生徒の実態を把握します。
  - 学習に関するアンケート調査を実施し、結果を共有します。
  - 「朝の会」や「夕の会」の時間を利用して、アンケート結果を共有します。
  - アンケート結果に基づき、学習方法を検討します。
  - アンケート調査結果を基に、学習方法を決定します。
  - アンケート調査結果を基に、学習方法を決定します。
- ② 本時の活動(個人として問題解決の方法を話し合う)
  - 学級全体で問題意識の共有を促します。
  - アンケート結果を共有し、学習方法を共有します。
  - 学級全体で問題意識の共有を促します。
  - アンケート結果を共有し、学習方法を共有します。
- ③ 振り返り
  - 学級全体で問題意識の共有を促します。
  - アンケート結果を共有し、学習方法を共有します。

「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」  
→国立教育政策研究所HPより閲覧可

## 3 点検・評価で子供のやる気を喚起しましょう

- 提出されたノートやプリントには必ず目を通し、早目に返却しましょう。
- できる限り教師の言葉を記入し、頑張りを認めたり対話をしたりしましょう。
- 家庭学習の内容を授業の導入や終末で取り上げましょう。



ノートやプリントだからこそできる対話もあります。

## 4 学校全体で情報を共有しましょう

- 教師によって、家庭学習の量や内容に差が生じることがあります。その差が大きくなると、子供や保護者の不安や不信感につながる場合があるので、学校全体で情報共有することが重要です。
- 中学校では、定期テスト前(特に学期末テスト)に複数の教科が重なり、課題の量が膨大になりがちです。事前に学年団で話し合ったり、担任と教科担当とが連携を図ったりして、適切な量を心がけましょう。